

くまびょう

93号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
3月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成16年度第2回(通算第18回)開放型病院連絡会開催される



福田稔委員長のご挨拶

平成16年度第2回(通算第18回)開放型病院連絡会が平成17年2月10日(木)午後7時より国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されました。開会にあたり宮崎院長が、歴代の開放型病院連絡協議会委員並びに登録医の先生方へのお礼を述べ、運用が「まんねり」化しないように心がけますので先生方からさらなる御指導を賜りますようお願いしました。また形成外科の新設、附属看護学校の落成などについて報告を致しました。

次いで、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会会長福田稔先生よりご挨拶を頂きました。福田先生は開放型病院は現在推奨されている医療の機能分化を推進する為に非常に有用な制度であること、これからの医療連携には信頼関係を育むことが重要であり、この連絡会はその信頼関係を育む大切な機会であることを強調されました。

全体会議は連絡協議会委員田中英一先生と池井が進行を担当しました。まず症例呈示として外科の山下医長が「肺癌に対する気管支形成術」をビデオを用いて講演し、形成外科の大島医長が「形成外科の新規開設」について症例を呈示しながら講演を行いました。

続いて総合討論に移り木村経営企画室長が「開放型病院の共同指導の利用方法」の案内を行い、清川研修

部長が新臨床研修医の研修の実状と来年度の地域医療研修への協力をお願い致しました。自由討論に移り、フロアから歯科の清村先生より、当院に対する要望等を述べて頂きました。

最後に厚生労働省保険局医療課長の麦谷眞里先生より「医療制度の今後の展望についてー診療報酬体型の見直しと平成16年診療報酬改定ー」について特別講演を頂きました。先生は診療報酬について平成16年度に見直しされた点と見直しが出来なかった点をあげて、また長期入院の診療報酬や混合診療についても触れながら、今後の方向性を示されました。先生には大変熱心に、診療報酬改定に対する意欲あふれたご講演をして頂きました。

今回も多数の登録医の先生方にご出席頂き、最後まで熱心にご参加下さいまして有り難うございました。

(副院長 池井 聡)



特別講演中の麦谷眞里先生

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>



新生国立病院機構熊本医療センターに寄せて

宮本内科小児科

院長 宮本 康志



平素より公私共に、宮崎院長先生はじめ池井副院長先生、各科のスタッフの皆様にはお世話になっております。紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。独立行政法人国立病院機構熊本医療センターとして新たなスタートをされたわけですが、ハードおよびソフト面での拡充、整備が展開されているところであります。先年、石原章先生を委員長とする市内開業医と国立病院機構熊本医療センタースタッフとの意見交換会である、アドバイ

サリコミティー委員を拝命致しました。年4回の委員会が開催され、各科の珍しい症例あるいは新しい知見などが科の紹介を兼ねて披露され、その後意見交換がなされます。病診連携あるいは病病連携を大きなテーマのひとつとして救急外来、紹介外来、入院、またボランティア問題などについて具申致しております。

個人的にも、去年の暮れ、小生の患者さんが救急外来にお世話になり、逝去されましたが“たこつぼ心筋症”という希有な疾患で大変勉強になり、今後の診療の大きな糧となりました。

思い起こせば、30年前程になりましょうか、故園田内科医長、吉松放射線科医長、太田外科医長の御薫陶をうけ、医局、勉強会に出入りさせて頂きながら、医師としてのイロハを教させて頂きました。つい昨日のような気が致します。先生方もすでに故人になられ、あらためて時の移ろいの早さを感じております。このように、機構は変わっても再び出入りさせて頂く、縁に感慨深いものがございます。と同時に、昨年来より、吉松真也先生の甥御さんである、吉松俊治先生が放射線科医長として就任されましたが、誠に喜ばしい限りです。

小生も、場所は違へ、国立熊本病院に勤務したものの一人として、ここ熊本の中心たる二の丸に位置する国立病院機構熊本医療センターの文字通り熊本の医療の中心として発展されますようエールを送るものであります。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

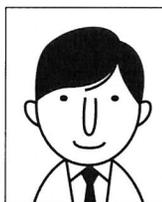
登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。

発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようお願い致します。

なお、写真は時間内であれば院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、外来駐車場にて駐車券をお取り頂き、医事0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成17年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
3. この証を紛失又は破損したときは、速やかに再交付の手続きを行って下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

2005年 診療科紹介(18)

整形外科



野村 一俊

整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科、関節リウマチ
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会専門医
日本整形外科学会スポーツ医
日本整形外科学会代議員
日本リウマチ学会評議員
西日本整形災害外科学会評議員
医療マネジメント学会理事
熊本大学医学部臨床教授



橋本 伸朗

整形外科一般、脊椎外科、
外傷外科
日本整形外科学会専門医
日本脊椎脊髄病学会指導医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医



福元 哲也

整形外科一般、膝関節外科、
股関節外科、外傷外科
日本整形外科学会専門医



廣瀬 隼

整形外科一般、肩関節外科、
外傷外科、スポーツ整形外科
日本整形外科学会専門医
日本体育協会スポーツドクター



井 賢治

整形外科一般、外傷外科



田中 あづさ

整形外科一般、外傷外科

研 究

人工関節置換術、脊椎手術を中心とした手術成績向上のための臨床研究を続けています。これらの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びついた研究として発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、人工膝関節置換術後の骨密度変化、頸椎症性脊髄症の病態解明と手術法の標準化の臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

最近のトピックス

美容皮膚科の進化



感覚器センター
皮膚科部長

前川 嘉洋

この数年、従来の皮膚科の分野に加え、美容皮膚科を取り入れる施設が増えてきています。2001年日本皮膚科学会雑誌にケミカルピーリングガイドラインが掲載され、人々の美しくありたいとの思いに開業医の先生方のみならず、勤務医においても積極的に取り組む姿が見られるようになってきたのです。美容皮膚科の分野は1980年代から本格的に始まったレーザー治療、電気脱毛、また1992年から普及してきたケミカルピーリングなどは、基本的には皮膚表面外科であり、皮膚科医がおもな治療者となり行う治療技術であるといえます。今回はそのうち代表的な治療法と最近経験した直線偏光近赤外線による治療について紹介します。

ケミカルピーリングは化学物質を塗布し、皮膚を一定の深さで剥離させることにより、皮膚の再生を図る治療法です。表皮の角層は、表皮角化細胞の最終分化過程で脱落直前の死んだ細胞ですが、その機能はきわめて重要です。一般に、角層に影響を与えることで生じる変化を利用した治療をcorneotherapyといいますが、皮膚の状態を改善することを目的としたケミカルピーリングは、いわゆるcorneotherapyのひとつといえます。表層のケミカルピーリングに最も頻用される試薬はグリコール酸でグリコール酸は真皮線維芽細胞への直接作用によりコラーゲン産

生を促進したり、チロシナーゼ活性を抑制したりすることによりメラニン産生を抑制することが報告されています。ケミカルピーリングの最も適応のある疾患はざ瘡であり、グリコール酸は角栓を融解することにより早期に面皰や丘疹を改善し、炎症を生じることを防御します。その他、適応のある疾患は毛孔性苔癬、炎症後色素沈着、日光性色素斑、肝斑、雀卵斑があげられています。

次に、直線偏光近赤外線による皮膚疾患の治療ですが、近赤外線は可視光線より長く、中間赤外線より短い波長帯の光です。近赤外線治療は、光生物学的反応または光化学的反応によって、抗炎症作用、鎮痛作用、創傷促進作用を有すると考えられ、多岐にわたる臨床応用が期待されています。直線偏光近赤外線治療器（スーパーライザー 東京医研製：SL）は組織深達性が高いとされる600-1,600nmの波長帯の近赤外線を照射することが可能とされています。最近、SLを用いて円形脱毛症（図）、糖尿病性皮膚潰瘍の治療を始めましたが、それぞれに効果がみられています。その他、褥瘡、星状神経節照射、带状疱疹後神経痛などに使用されているようです。

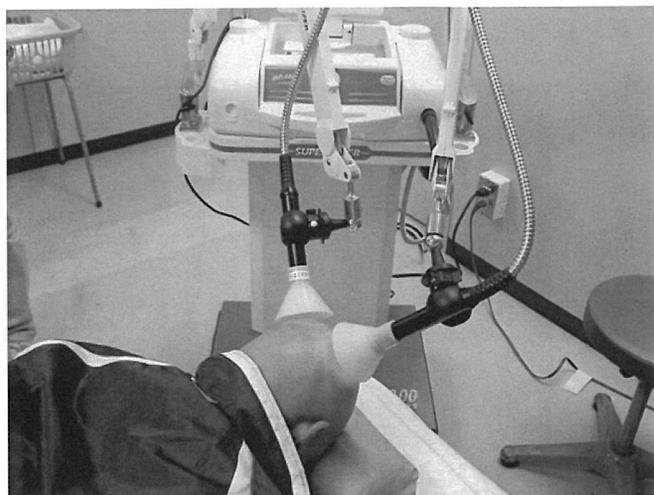


図 SLによる治療

最近のトピックス

放射線科領域の今後の展望について



画像診断・治療センター
放射線科医長

吉松 俊治

電子カルテは病診連携・病病連携における院内・院外ネットワークとして患者情報を共有するのに必要不可欠な手段であり、地域医療の中核病院として電子カルテ化は避けては通れない道です。電子カルテ化するにあたって検査データ等の文字情報を電子保存すると同様に、画像情報も電子保存しておく必要性があります。画像を電子保存するにはすべての画像診断装置をあらかじめデジタル化しておかなければなりません。

X線画像のデジタル化は近年急速に進み、画質の向上や画像処理の即時性・容易化が可能となり、失敗や取り直しのない撮影、検査時間の短縮、フィルムコストや保管場所の削減が可能となりました。特に病床数500以上の大規模病院ではその経済効果ばかりでなく、フィルムを探して運ぶという人的かつ時間的ロスの効率化において最大のメリットがあります。画像モニター読影が迅速に可能となり、診断結果および過去画像の参照がオーダーリングやネットワークの端末で簡単にできるようになります。

設備投資として画像診断装置更新を含めた画像のデジタル化・電子保存とフィルムレス (PACS) 化を一期的に行うには、電子カルテシステムそのものに匹敵するような高額予算が必要です。個々の画像診断装置を更新もしくは新規導入する際に画像のデジタル化と共通規格 (DICOM) 化をして、画像サーバに保存できるようにしておくことが経費節減の最善の方法と考えられます。

現在、当院では新規導入された10列マルチスライスCT (Siemens SOMATOM) とMRI 1.5T装置 (Phillips Intera)、既存の一般撮影装置 (FCR) とRI装置がDICOM出力できており、画像サーバ保存とレポートングシステム導入がいつでも可能です。既存のヘリカルCT (東芝Asteion) はDICOM出力化できますが、接続費用がかかります。血管造影装置、X線テレビ (透視) 装置3台、乳腺撮影装置、MRI 0.5T装置はDICOM出力不能で、装置を更新してはじめて画像サーバ保存ができるようになります。心カテ装置は動画サーバに画像保存されています。

一般撮影および透視・DSA装置は、新しい薄型のX線平面検出器 (FPD) の出現でX線を直接電気信号に変換 (デジタル化) できるようになりました。高精細の静止画および動画像がモニタ参照可能です。35mmフィルムや8mmビデオがデジタルカメラやデジタルビデオに置き換わったのと同様に、X線フィルムからFPD装置でデジタル保存の時代となりました。装置更新時にはFPD装置の導入を考えております。

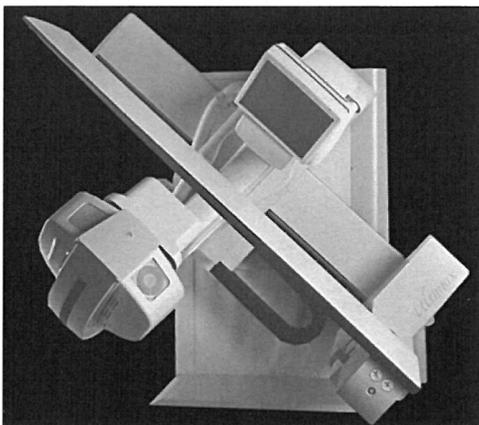


図1 薄型X線平面検出器 (FPD) 搭載の透視・DSA装置 (多目的IVR装置)

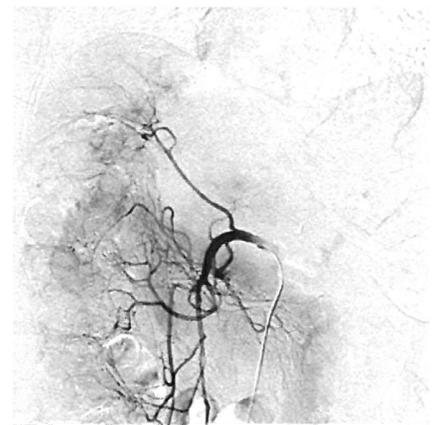


図2 上腸間膜動脈造影 34cm (大角サイズ) の四角型DSA像

■ 研修のご案内 ■

第68回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成17年3月9日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「呼吸困難 呼吸器疾患」 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝
医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第190回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

〔日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定〕

日時▶平成17年3月12日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「黄疸」

座長 熊本市医師会理事 相良 勝郎

1. 小児の黄疸 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝
2. 内科的黄疸 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科医長 杉 和洋
3. 外科的黄疸 国立病院機構熊本医療センター外科 松崎 法成
4. 自己免疫性肝疾患と黄疸 国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長 石橋 大海

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第74回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年3月14日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「対麻痺で発症した脊椎梗塞の1例」
国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 幸崎弥之助
4. ミニレクチャー「不明熱で発症し診断が困難であったネコ引っ掻き病の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液内科 井上 佳子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第43回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年3月17日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. リスパダール内服開始後に急激な血糖コントロールの増悪（非ケトン性高浸透圧性昏睡）をきたした症例
国立病院機構熊本医療センター内科 青木由香、大磯洋、石井規夫、市原ゆかり、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三
なお、興味のある症例・ご疑問・ご質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線796

平成17年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修ホール	会議室	ほか
1日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
2日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
3日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
4日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
5日(土)	14:00~16:00 第180回 滅菌消毒法講座《会員制》 「手術部、材料部のこれから」 九州大学医学部附属病院副院長 高橋 成輔		
7日(月)	18:00~19:00 第23回くすりの勉強会(公開)	17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
8日(火)		19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会 18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
9日(水)	18:00~20:00 第68回 救急症例検討会 「呼吸困難 呼吸器疾患」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
10日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
11日(月)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
12日(土)	15:00~18:00 第190回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 「黄疽」 1. 小児の黄疽 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝 2. 内科的黃疽 国立病院機構熊本医療センター 消化器病センター消化器科医長 杉 和洋 3. 外科的黃疽 国立病院機構熊本医療センター外科 松崎 法成 4. 自己免疫性肝疾患と黄疽 国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長 石橋 大海		
14日(月)	19:00~20:30 第74回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
15日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
16日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
17日(木)	19:00~20:30 第43回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
18日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
23日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
24日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
25日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
28日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
29日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
30日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
31日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 研食 研修棟食堂
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)